

おでやれくらぶ小布施社会見学

「小布施の歩みに触れ
現代のまちづくりを学ぶ」
に参加して



記録的な猛暑が続く7月下旬、総勢16名により社会見学を実施しました。

北斎館の祭屋台、高井鴻山記念館、栗の小径、岩松院の八方睨み鳳凰図などを巡るなか、高井鴻山記念館では、かつて長野市教育委員会に在籍された市村館長から、小布施の文化振興に尽力し、現在の賑わいの礎を築いた高井鴻山について解説を頂きました。

豪農・豪商であった鴻山は、広く学問を修め、中央の文化人との交流を重ねる中、特に葛飾北斎を招き入れ作品制作の支援をしたことで、世界的な評価を得ている肉筆画の傑作が小布施に残されることとなりました。そして、善光寺大地震に際し金五百両を寄進したこと、また、明治12年にはかつての長野町の横沢町、旭町、権堂に私塾の高矣義塾を開いたことなどを年譜で紹介(説明)

をいただき、鴻山と長野市との縁があったことなども学びました。

その後、時代の波の影響を受けた小布施の地でしたが、近年、高井鴻山記念館や小布施堂周辺を中心に官民共同事業による「栗の小径」などの空間が形成され、土蔵を活かした街並み修景事業を通じて、年間100万人の観光客が訪れる文化芸術溢れる町に変貌を遂げました。

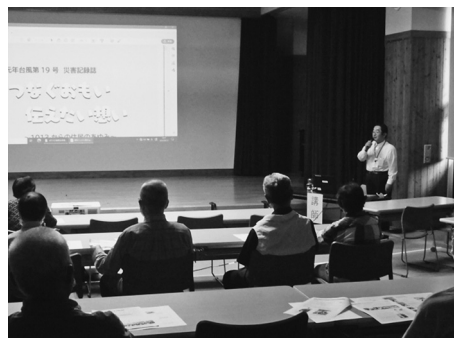
長い歴史のほんの一部に触れただけではですが、今回の社会見学を通じて、各地域を担う先人たちの苦勞の積み重ねの上に今日があることを改めて認識するとともに、人口減少、高齢化や気候変動などの深刻な課題を抱える中ではありますが、日本一の水芭蕉の群生地やブナ原生林など大切な自然遺産とともに故郷鬼無里のぬくもりを大切に守っていかねければならないことを強く心に刻みました。

地域防災講座

2019年の台風19号による千曲川溢水によって、長沼地区では甚大な浸水被害が発生しました。

それから早6年を迎えようとしている今、「あの時」を振り返り、そして被災体験を語り継ぐとし、初めに、フィクション「決断」火の見櫓に登った男たち」の上映に続いて、当時、機能停止した市民生活に被災直後から、まさに、不眠不休で懸命に対応し、現在も、長沼地区支援担当として、地域の皆様に寄り添い続けている元長野市長沼支所長 海原慎吾さんから講演をいただきました。

思いもよらない大規模災害がいつどこで発生するかわからないという状況下であって、決して簡単なことではありませんが、有事の際にはいかにわが身や家族を守るか、また、大災害がいつ起きても乗り越えられる強い気持ちと備えるかについて、講演を機に改めて見直すいい機会となりました。



時節



◆市営鬼無里線
来年4月から運行される市バスのルート素案が発表された。

現行の善光寺大門から中央通りを南下し駅に向かう区間が、信大教育学部から南下し、県庁、昭和通り経由で駅へと変更になるという。

◆クマ注意
全国的に人里へのクマの出没や人への危害事案が発生し、ついには自衛隊までもが対応の一翼を担うこととなった。幸い、鬼無里に出没する熊は今のところおとなしいが、人口減少により緩衝帯整備にも手が回らず、一段とボーダレス化が進んでいる。より一層、様々な災害に対し、自己防衛の工夫と対応が求められる。しかし、クマが国を動かすとは恐れ入った。(は)

令和7年度に開催した講座の一部を紹介します

第52回鬼無里文化芸術祭 11月2日(日)～4日(火)

(舞台発表・展示発表トピックス)

令和7年度実施概要

来場者数

(3日間延べ) 240名

作品出展者数

個人 12名

団体 10団体

舞台発表出演者数

個人 2名

団体 10団体

演目数

31演目

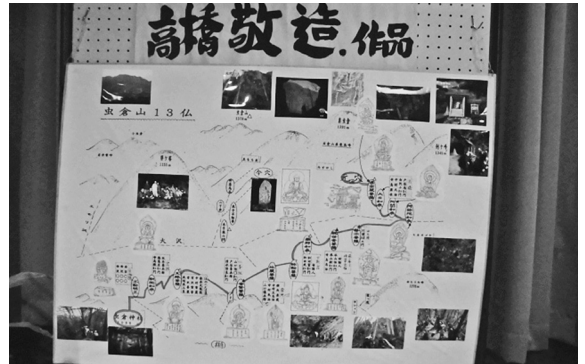
鬼無里保育園
はにわの世界



虫倉山十三仏



高橋敬造. 備



食品サンプル



鬼無里寺子屋塾
地域の歴史学習



中学校書道作品



鬼無里の湯
ふれあいサロン



尺八演奏



小学校合唱



鬼無里中学校 修学旅行

歩きに歩いた3日間：

6万歩の軌跡と奇跡

—男の子だけの修学旅行—

それは2日目のことでした。金閣寺に始まり、銀閣寺。そして満開の桜の下「哲学の道」を法然院・安楽寺と巡り大豊神社・熊野若王子神社と4つもの寺社をまわりながら踏破。更に禅林寺（永観堂）で臥龍廊を含む美しい景観をすべて味わい、休む間もなく南禅寺三門・水路閣と変化に富む雄大な景色を堪能。暑い日差しの中、宿舎への帰路につきました。

まるでインバウンドの観光客が占領したかのような京都の町は、どこに行っても人の波。地下鉄の車内では少しだけ空間にゆとりが生まれることはあるにせよ、新年度になったばかりの街。通勤通学のラッシュ時の混雑は避けられはしません。そんな環境の中、宿舎の最寄り駅に着いた途端、まるで、そこがホームグラウンドでもあるかのように自然に歩き出す姿に、生徒たちの確かな成長が感じられたのです。

やがて、独り立ちしていくであろうこの子たちが、見知らぬ街の雑踏の中で堂々と歩き出す姿は、この旅行の目的の大切なものを確実に達成してくれた姿でもありました。そして、もちろん、笑顔で過ごしてくれた3日間に感謝しています。



京都伏見稲荷にて…
「満開の桜の木の下で」

鬼無里の祭屋台 その2

鬼無里ふるさと資料館

きなさーれ

古畑 敦

その2は宮彫り師・北村喜代松についてとなります。喜代松は現在の新潟県糸魚川市市振に生まれました。

代々宮彫り師を家業とする家で若い頃から腕を磨きました。近所の大工棟梁 片桐利七と一緒に各地を周るようになり、新潟、富山、長野（主に北信）が主な仕事先でした。

鬼無里に來たのは嘉永四年頃（一八五一年）、二二歳の時。戸隠神社（当時は天台宗戸隠山顕光寺）の再建などで北信地方に来ていた喜代松は、隣の鬼無里で声をかけられ財又地区の諏訪神社祭屋台の彫刻を手掛けました。その仕事ぶりは鬼無里で評判になり他の神社の祭屋台にも関わることになりました。十年ほど鬼無里で仕事をした後に善光寺周辺でも仕事をしていきます。桜枝町、横沢町の神樂屋台が見事です。これは近



北村喜代松

年作風が酷似していることから喜代松作と発見されたものです。

文久年間（一八六一〜六四）に桜枝町の北村家の養女となっていた北村ふさ（鬼無里出身）と結婚して「北村喜代松」を名乗るようになります。長男の直次郎（後の北村四海）が生まれ家族が増えたことから、明治九年（一八七六）に家族で故郷の市振に戻ります。

それからは主に北陸地方の寺社彫刻を手掛け多くの寺社彫刻を遺しました。北陸から北信濃の街道筋では北村喜代松の名を知らない人はいないと言われるほどの腕前でした。

晩年まで仕事に勤しんだ喜代松は明治三十九年（一九〇六）



東京加茂神社 神樂の精密な彫刻

に七十七歳で生涯を終えます。息子の直次郎は、同じ宮彫りの道に進みましたが後に北村四海と号し、大理石彫刻家として世に出ます。四海は父から教訓として「思い通りに彫ろうとして傲慢な態度で木に向かうと、木は逆らうてうまくいかないものだ。心を素直にして臨むと思う通りに彫らせてくれる」と教えられたそうです。人生のすべてに通じる言葉だと思います。第三回目は装飾されている彫刻について解説します。

3分館の活動(6月〜11月)

上里分館

「上里分館ハイキング」

7月27日(日)小布施周辺の散策ウォーキングに出かけました。

フローラルガーデンおぶせで館内の鑑賞をしました。

葛飾北斎の天井絵で有名な岩松院で素晴らしい鳳凰図の解説を聞き、岩松院周辺を散策ウォーキング致しました。

雄大な北信五岳の景観を見ながら、昼食を小布施温泉で頂きました。

雄大な山々に囲まれた自然と農業、産業、芸術を肌で感じた一日でありました。

中央分館

「長野市立博物館、川中島古戦場めぐり」

10月5日(日)、武田信玄×上杉謙信の決戦の地「川中島古戦場」を訪れました。

ボランティアアガイドによる古戦場案内後、市立博物館の

1階で特別展「川中島の戦いと真田」を見学しました。また、2階常設展示の

「産業と教育」部門では、かつて松代藩が特産品の販売に積極的に支援したことを通して、鬼無里の昔の歴史・産業などを深く知る事が出来ました。

昼食後は、プラネタリウムで学芸員から寺島宗伴が作成した星図や、天体ドームでは40cm反射望遠鏡についての解説をいただき、有意義な時間を過ごす事が出来ました。

両京分館

「両京分館謡曲講座」

両京分館では、今年も新倉地区の佐竹永成さんが講師となり「謡曲『紅葉狩』を謡おう」の講座を開催しました。

第52回の文化芸術祭の舞台発表では、シテ(舞い手)を佐竹さんが、地謡を講座

参加者がそれぞれ担い、練習の成果をしっかりと皆様にご披露

することができました。

鬼無里公民館運営審議会委員

(任期 令和9年5月31日)

宮下一宏(新)
青木和夫(新)
徳武昭江
有澤玲子(新)
戸谷美知子
山口正(新)
中村稔光(新)

わたしの作品

短歌

何ごとも一息つけば一息が長々となる老いたる吾の

春は花の秋は紅葉の移ろひを鬼無里に眺むる吾の消光

八木政太郎 〈東京都〉

年経て変わらぬ出来栄えは作品どれもステージでも

山口信雄 〈蒲田〉

俳句

安穩を紅葉観音見守りて

木の葉舞い三段とびで冬が来る

山口信雄 〈蒲田〉
宮下米子 〈西京〉

川柳

古希過ぎてサプりに頼る我体

宮下米子 〈西京〉

新刊紹介

リボンちゃん寺地 はるな
18マイルの境界線

※特設コーナーでは、「冬に読みたい本」を特集しています。公民館図書室までお越しをお待ちしています。

暴走正義 川瀬 七緒
まろ丸伊勢参り 下村 敦史
佐伯警部の推理 畠中 恵
おひげピンピン 佐々木 譲

しもかわら ゆみ
しゅっぱつ!でんしゃのう
んてんし 羽尻 利門
おいしいおのまとペ 高原 美和

鬼無里地区人口

(令和7年12月1日)

世帯数 579 (+3)
総人口 1,054 (-10)
男 493 (+1)
女 561 (-11)

()内は令和7.6.1との比較増減
表紙の題字 一色白泉氏(書家)